

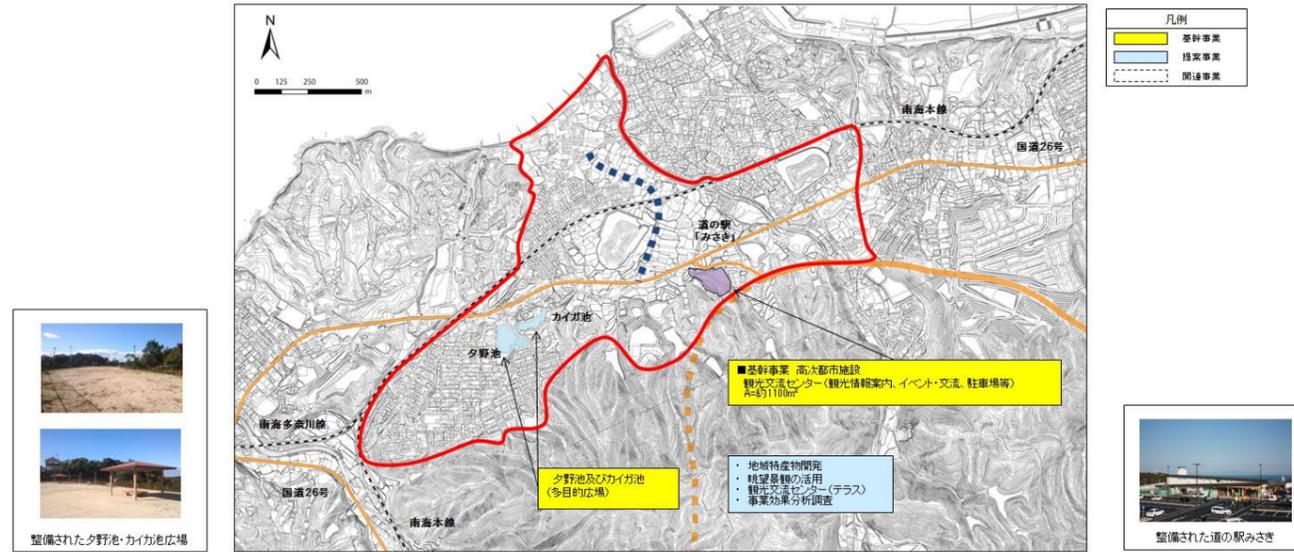
1 計画に位置づけ実施した事業

■ 基幹事業

地域生活基盤施設（夕野池及びカイカ池）、高次都市施設（観光交流センター（観光情報案内、イベント・交流・駐車場））

■ 提案事業

地域創造支援事業（地域特産物開発（岬町内）、眺望景観の活用（観光交流センター（テラス）））、事業活用調査（事業効果分析調査（岬町内））



2 数値目標の達成状況及び総合所見

■ 指標 1 観光・交流人口

〈計測方法〉

- 平成 24 年度の主要観光施設（みさき公園、せんなん里海公園、淡輪海水浴場、青少年海洋センター）の入場者数をもとに設定しました。

〈計測結果〉

従前値（平成 24 年度）	目標値（平成 29 年度）	評価値（平成 29 年度）
87.5 万人	95.0 万人	101.9 万人

〈総合所見〉

- 道の駅「みさき」の観光交流センターの整備や観光・交流施策の推進、各施設の集客努力、第二阪和国道の整備に伴い各観光施設の入場者数の増加につながりました。
- 展望テラスの利用者割合も高く、眺望景観の活用も一定の効果을あげていると考えられます。
- 自家用車を利用しない層に対しては、コミュニティバスの利用により、道の駅にアクセスしている実態がうかがえます。
- 今後も施設の適切な維持管理を行いつつ、イベントスペースを活用した取組を並行して進めることで観光・交流人口の増加に取り組みます。

■ 指標 2 安全・安心に関する満足度

〈計測方法〉

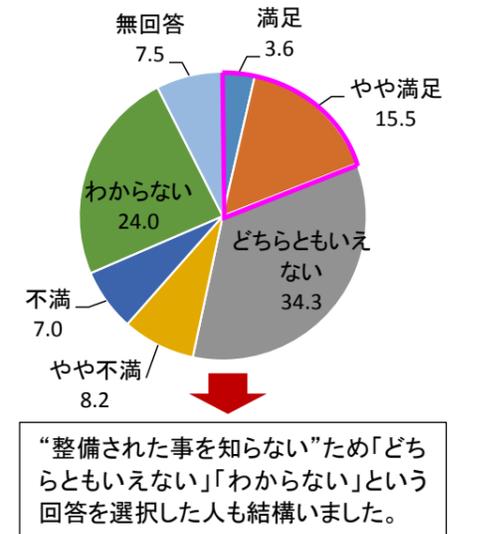
- 地区住民アンケート調査の「生活環境の整備や自然環境の保全」に関する問のうち淡輪地域における「防災対策の推進」に対する満足度を設定しました。

〈計測結果〉

従前値（平成 21 年度）	目標値（平成 29 年度）	評価値（平成 30 年度）
11.2%	30.0%	19.1%

〈総合所見〉

- 夕野池及びカイカ池の多目的広場の整備により防災性は一定向上したと感じられており、従前値を上回る評価とはなっていますが、そもそも整備されたことを認知されておらず、目標を達成することができませんでした。
- また、台風 21 号等による災害被害や大阪北部地震の影響による防災意識の高まり、関連事業の（仮称）海岸連絡線の整備の遅れ等が目標達成に少なからず影響を及ぼしていることが考えられます。
- 今後は、以下のような改善方針のもと安全・安心の取組を進めます
 - 当該施設を整備したこと、及びその趣旨・目的の周知を図り、住民の認知度を高めるよう努めます。（例：住民ワークショップの開催など）
 - 防災訓練等の際に夕野池及びカイカ池の利用を促進することで当該施設の周知を図りながら防災意識の向上に努めます。
 - 地域防災計画の改訂時に、多目的広場や道の駅「みさき」の避難場所としての指定を検討します。



■ 指標 3 生活環境に関する満足度

〈計測方法〉

- 地区住民アンケート調査の「都市基盤の整備」に関する問のうち淡輪地域における「道路整備の推進」に対する満足度を設定しました。

〈計測結果〉

従前値（平成 21 年度）	目標値（平成 29 年度）	評価値（平成 30 年度）
20.0%	30.0%	37.7%

〈総合所見〉

- 道の駅「みさき」の整備や第二阪和国道の整備などが進み、生活環境が大きく改善され満足度向上につながりました。
- 今後も施設の適切な維持管理を行い、生活環境に関する満足度向上に取り組みます。

当初、設定した数値目標のほか、次の2つを「その他の数値目標」として新たに設定しました。

■その他の数値指標① 道の駅「みさき」利用者の満足度

〈理由〉

- 地区の整備に伴う効果として、基幹事業として整備された高次都市施設「観光交流センター」等利用者の満足度を測定することは、観光・交流を促進していく指標としてふさわしいという理由から新たに設定しました。

〈計測方法〉

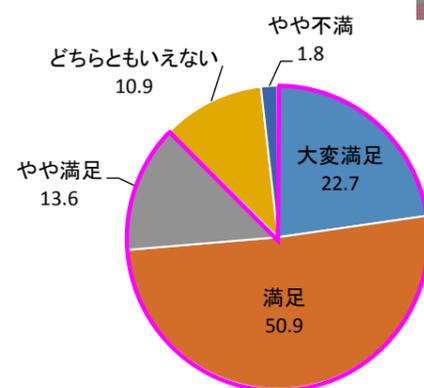
- 道の駅「みさき」利用者に対して、対面式アンケート調査を実施して道の駅「みさき」の満足度を把握しました。



対面式アンケートの様子

〈評価結果〉

道の駅「みさき」利用者の満足度
⇒ 87.2%（平成30年度）



〈総合所見〉

- 道の駅「みさき」の観光交流センターの観光情報や農産物等の直売所の品揃えの充実度などが利用者の満足度につながっていることが分かりました。
- また、トイレの評価が高く、このことは施設が新しいだけでなく、清掃が行き届いている点も評価されていると考えられます。
- 今後も道の駅の適切な運営を働きかけ、道の駅利用者の満足度向上に取り組みます。

■その他の数値指標② みさき公園来訪者の道の駅「みさき」への立ち寄り割合

〈理由〉

- 地区の整備に伴う効果として、町内最大の観光施設であるみさき公園利用者が基幹事業として整備された高次都市施設「観光交流センター」に立ち寄る機会ができたことは、観光・交流を促進していく指標としてふさわしいという理由から新たに設定しました。

〈計測方法〉

- みさき公園の利用者に対して、対面式アンケート調査を実施して道の駅「みさき」への立ち寄り割合を把握しました。

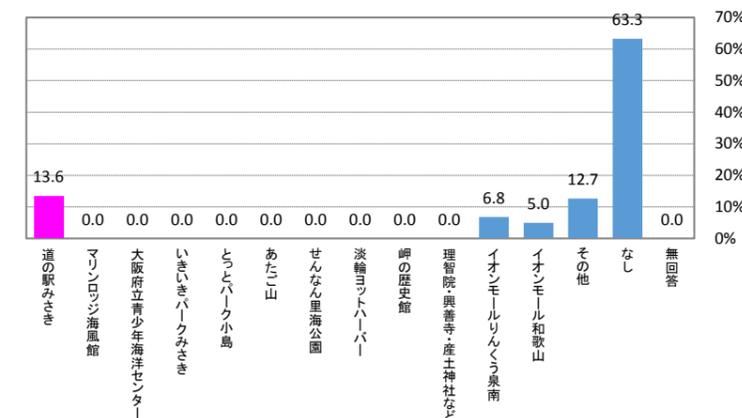


対面式アンケートの様子

〈評価結果〉

みさき公園来訪者の道の駅「みさき」への立ち寄り割合

⇒ 13.6%（平成30年度）



〈総合所見〉

- 道の駅「みさき」が提供している各種サービス（観光情報の入手、お土産購入や飲食など）を目的とした立ち寄り客が増えつつあります。
- 今後も道の駅の適切な運営を働きかけつつ、広報・PRを行いながら、道の駅への立ち寄り割合の向上に取り組みます。

3 今後のまちづくりの方策等について

町内の観光施設への来場者数の確保に取り組みます

- 着実に進んでいる観光・交流人口の拡大を維持するため、「道の駅「みさき」の適切な維持管理、サービスの充実」「観光情報等の発信、周知・PR」「第二阪和国道の4車線化への働きかけ」「町内の交通ネットワークの形成（道路整備やコミバスのルート見直しの検討等）」に取り組みます。

住民の生活利便性の維持を図ります

- 着実に向上しつつある住民の生活利便性を維持するため、「道の駅「みさき」の適切な維持管理、サービスの充実」「第二阪和国道の4車線化への働きかけ」「町内の交通ネットワークの形成（道路整備やコミバスのルート見直しの検討等）」に取り組みます。

安全・安心に関する満足度の向上に取り組みます

- 地区住民に対して、夕野池及びカイカ池の多目的広場の整備実施に関する周知・PRと整備趣旨の理解を得るよう取り組みます。（例：住民ワークショップの開催など）
- 防災訓練等の際に夕野池及びカイカ池の利用を促進することで、当該施設の周知を図りながら防災意識の向上に努めていきます。
- 地域防災計画の改訂時には、多目的広場や道の駅「みさき」の避難場所としての指定を検討します。

作成者：岬町都市整備部産業観光促進課

発行年月：平成31年3月